

# 高齢者住宅新聞

## 2021年1月6日付

### 施設と給食会社 連携



▲入居者の目の前で調理

アズパートナーズ(東京都千代田区)は、2020年2月から全ホームで月1回豪華ランチの提供を開始。各ホームと給食会社が協力し、食事サービスの質向上を目指して取り組みを強化している。



アズハイム 横浜いずみ中央 竹本寛喜ホーム長

同社が運営するアズハイム川崎中央では、以前から毎月独自に豪華ランチを提供していた。エレベーターなどにグルメポスターを貼ることで、施設・給食会社間で競争意識が生まれ、以前より増して管理者と厨房責任者の連携が強化されたとい

「今まで刺身を好まなかった入居者が解体ショーを見て刺身を食べて『美味しい』と喜んでくれました。入居者は毎回、期待を膨らませて楽しみにしてい

「厨房スタッフのなかには、過去に一流レストランで活躍した人も多く、今回の企画でホームごとの個性が見えるようになりました」(シニアホーム運営部統括グループ伊藤寛政グループ長)



▲ポスターで入居者にお知らせ

この企画で入居者の満足度向上を図れただけでなく、ホーム長や厨房スタッフのやりがいも高まったという。

### 第9回 制度改正にどう立ち向かうか①

介護給付費分科会では、令和3年4月の介護保険制度改正に向けた議論が活発に行われていま

○訪問看護の看護師配置割合を6割に(リハ職の抑制)  
○通所介護の個別機能訓練加算1・2の統合と上位区分の新設  
○通所介護の入浴加算の引き下げと上位区分の新

株スターコンサルティンググループ  
糠谷和弘 代表コンサルタント  
http://www.s-cg.co.jp  
「業績向上」を最重要テーマとした「現場主義」のコンサルティング会社。  
介護事業経営専門のコンサルティング会社を立ち上げ、「地域一番」の介護事業者を創り上げることを目指した活動に注力。20年間450法人以上の介護事業者へのサポート実績を持つ。書籍に「介護施設職&リーダーの教科書(PHP)」などがある。

これらは事業者にとって、大変厳しい内容です。一方、グループホームのケアマネ配置の緩和や、居宅介護支援事業所におけるケアマネの基本報酬削減を、現行の40から45件にするなど、現場の状況を踏まえた前向きな議論も行われています。毎週行われる分科会の内容から、まったく目が離せない状況です。

### 4月までにやっておくべきこと

1では、機能訓練を介護職が行っても加算の算定ができませんでした。ラジオ体操のような集団での運動を、加算のための訓練メニューにしている施設もありません。それが、来春以降できないとなれば、加算獲得のためには、大きく現場のオペレーションを変えなければならぬでしょう。

さて、それを進める際、あなたはどうするに現場に指示をしますか? 改正内容をダイレクトにスタッフに伝えて「改正されたんだから仕方ない」と無理やり動かさず、スタッフは気持ちよく動いてはくれないう。理由は制度改正でも、あなた自身にマイナスイメージを持つかもしれない。前向きに動いてもらうために、いくつかの手順を踏む必要があります。

①スタッフ説明会  
全スタッフを対象に、チームメンバーから介護保険制度の改正内容を丁寧に説明し、その上で、利用者や家族にも変更内容をお知らせします。「目的」を伝えると良いです。

②試験導入  
いきなり全体の動きを変えると、スタッフだけでなく利用者も混乱してしまいます。まずは部分的に導入し、チームメンバーを中心に問題点の抽出とその解決を図ります。

③利用者説明  
スタッフと同様に、利用者や家族にも変更内容をお知らせします。「目的」を伝えると良いです。

④全面導入  
試験導入の結果をもとに、全体を変えていくこととなります。全面導入も、徐々に進めて行くほうが良いと思います。

まずは、1日も早くチームを結成しましょう。その上で、来年4月の改正までは①④のうち「②試験導入」までは終わらせておくといいでしょう。また「③利用者説明」に関して、大きな変更を伴う場合には、書面での伝達が必要になると思います。どう伝えるのが良いかも踏まえて、メンバーでしっかりと議論しましょう。

## 2021年3月 東京都杉並区に新規施設OPEN予定

東京都杉並区にサービス付き高齢者向け住宅「ローベル西荻窪」がOPEN予定!  
「ローベル」には「より良き1日のほじまり」という意味が込められています。

